

3 大分市の文化・芸術の現状と課題

④ (1)市民が主体の文化・芸術活動

① 現状

ア) 活動の概要

本市では、音楽、舞踊、演劇、芸能、美術（彫刻・写真・陶芸等を含む）、華道、茶道など、市民主体の多彩な活動が展開されています。

こうした活動に取り組む個人や団体の中には、大分県芸術文化振興会議^(※1)への加盟、活動分野ごとの組織化、県外の団体等とのネットワークの構築などにより、相互の連携強化を図っている団体等も多くあります。



<演劇公演の様子>

また、伝統芸能と現代アートがコラボレーションし、新たな魅力を創出する試みも進められています。（資料36・46～48ページ参照）

イ) 活動の目的



<舞踊公演の様子>

それぞれの活動は「メンバーの親睦」「活動成果の発表」「芸術水準の向上」「青少年の健全育成」や「伝統芸能の継承」など様々な目的を持って取り組まれています。

また、普及・啓発の目的で「アウトリーチ」^{(※}

2) や「ワークショップ」^(※3)に取り組む団体等もあります。（資料39・41・45ページ参照）

ウ) 団体の構成と中心メンバー

団体の構成員数は、「10人未満」から「50人以上」まで様々ありますが、活動の中心となるメンバーの年齢は、60歳代、70歳代が多く、比較的高齢の方々が推進役となっています。（資料35ページ参照）

エ) 活動の場所

活動の場所は、「コンパルホール」「公民館」「ホルトホール大分」「iichiko 総合文化センター」など、公共施設が多くなっています。

また、ギャラリーやライブハウス、企業の店舗などの民間施設、商店街

や公園などの街角空間も活用されています。（資料37・38ページ参照）



<公民館作品展の様子>

オ) 活動資金

活動資金は「会員の会費」が最も多くなっており、次いで「作品等の売上や興行収入」となっています。また、行政や民間等からの「補助金」については、活動費に占める割合は低いものの、活動資金の一部としている団体等が多くあります。

（資料40ページ参照）

② 課題

団体等にとって、新たなメンバーの確保や後継者の育成をはじめ、活動内容の質の向上、活動の場と資金の確保などが大きな課題となっており、市民や企業、行政が一体となって総合的な支援に取り組むことが求められています。（資料42ページ参照）

✚ (2)歴史遺産・文化財

① 現状

本市には、旧石器時代から近現代に至るまで、様々な歴史遺産や文化財が遺されています。

縄文時代の集落遺跡である「横尾遺跡」、古墳時代の首長墓である「亀塚古墳」や「築山古墳」、奈良時代に建立された「豊後国分寺跡」、平安時代に造立された多彩な「磨崖仏文化」、中世における「大友氏関連遺跡」、近世における「府内城址」「今市石畳」などは、本市の脈々と続く歴史を物語る貴重な文化財として今に伝えられています。(資料56～62ページ参照)

こうした歴史遺産や文化財は、計画的な保護・保全が進められる一方、住民の手でそれらを核とした祭りが開催されるなど、地域づくりに活用されているケースもありますが、全市的な広がりが見られる取組は多くありません。



<大友宗麟公像>

このような中、本市は、中世戦国時代に豊後府内の名声を遠くヨーロッパの地にまで広めた郷土の英傑大友宗麟公の功績と南蛮文化が開いたその時代の様々な歴史遺産を市民の誇りとし、魅力あるまちづくりを進めるため、関係する県内6市町(国東市、日出町、臼杵市、津久見市、竹田市、大分市)との共同で「おおいたのキリシタン・南蛮文化遺産活用・発信プロジェクト」を実施し、様々な事業に取り組んでい

ます。

また、中心部の道路や公園等には、南蛮文化をテーマとするものの他、数多くの屋外彫刻があり、道行く人に文化の薫りを届けています。(資料64～65ページ参照)

② 課題

本市の歴史遺産や文化財について、その価値や面白さを多くの市民に知ってもらうとともに、市民共有の貴重な財産として効果的に活用されることが求められています。

このため、市民との協働で、市内に点在する文化財などを分かりやすく紹介する情報の整備と発信が求められています。

特に、市内中心部においては、大分駅周辺の整備に併せ、文化や歴史の薫りが感じられるようなまちづくりを進め、都市全体の賑わいの創出や地域経済の活性化につなぐ仕組みづくりが急がれています。

✚ (3)祭り・イベント

① 現状

市内中心部では、「大分七夕まつり」「大分生活文化展」「おおいた夢色音楽祭」、鶴



<おおいた七夕まつり「府内戦紙」>

崎地区では「本場鶴崎踊大会」、大南地区では「大野川合戦まつり」、穂田地区では「ななせの火群まつり」、大在地区では「おおざいワッショイ」、坂ノ市地区では「萬弘寺の市」、佐賀関地区では「関の鯛つりおどり大会」、野津原地区では「今市石畳まつり」、明野地区では

「明野まつり」など、地域を代表する祭りやイベントが開催されています。

これらは、来場者数も多く賑わいづくりに一定の成果を収めていますが、地域経済の活性化に結びつけるための市外・県外からの誘客については、必ずしも十分とはいえない状況です。

一方、校区、自治区単位では、地域住民の手づくりによる祭りやイベントが盛んに開催されており、心豊かで潤いある市民生活に欠くことのできないものとなっています。(資料63ページ参照)

② 課題

地域を代表する祭り・イベント等については、地域経済へのメリットを実感できるように、さらなる誘客をめざした魅力の向上とこれまで以上に積極的な情報発信が求められています。

また校区、自治区では、少子高齢化などの進行により、祭り・イベントの担い手の減少が大きな課題となっています。

📌 (4)スポーツ文化

① 現状

市内では、スポーツ少年団、中学校体育連盟、高等学校体育連盟、各種競技団体などにより、様々な生涯スポーツや競技スポーツが取り組まれています。

また、地域の課題は地域住民の手で解決することを目標とする「総合型地域スポーツクラブ」が結成され、世代間の交流が図られる中、スポーツを核とした様々な地域活動が展開されています。

本市は、このような活動を支援するため、生涯スポーツに参加する契機となるイベントの開催やスポーツ施設の整備、小中学校の屋内体育施設の地域開放などに取り組んでいます。



<大分トリニータホームゲーム>

一方、本市に本拠地を置き、国内トップクラスのリーグで活躍するスポーツチーム（クラブ）の存在を活かし、これらをまちづくりの重要なパートナーと位置づけ、市民が応援することで郷土を愛する心や一体感の醸成を促すとともに、チーム（クラブ）はそれに応じて本市の魅力あるまちづくりや情報発信に貢献することをめざす「ホームタウン推進事業」を推進しています。

② 課題

市民が取り組む生涯スポーツや競技スポーツには、身近で利用しやすい施設の提供が求められています。

また、「総合型地域スポーツクラブ」の運営においては、活動の場の確保や推進役の育成、参加者の確保などが課題となっています。

さらに、「ホームタウン推進事業」については、市民にとってチーム(クラブ)の存在やホームゲーム開催のメリットが実感できるように、これまで以上の積極的な推進が必要です。

✚ (5)その他の文化(食、景観、建築物)

① 現状

ア) 食文化

豊かな自然に恵まれた本市には、ブランドとして確立している「関あじ・関さば」や「大分ふぐ」といった高級食材をはじめ、大分発祥の「とり天」や「鶏めし」「だんご汁」「りゅうきゅう」など、人をひきつける魅力を持った郷土料理が数多くあります。



<とり天>

イ) 景観

国東半島沿岸（国道213号）から別大国道（国道10号）を經由して佐賀関まで（臨海産業道路、県道大在大分港線、国道197号・217号）の海岸線は、特にすばらしい眺望で、日本風景街道^(※4)「別府湾岸・国東半島海への道」のルートに登録されています。

また、本市の素晴らしい風景や景観を市民がを見つけ、写真で応募し、それを市民投票で表彰する「大分きれい100選事業」に取り組んでいます。



<大分きれい100選事業 第2回大賞作品>

ウ) 建築物

国指定の重要文化財である「後藤家住宅」や「柞原八幡宮」、国指定の登録文化財である「大分銀行赤レンガ館」や「太田缶詰工場」「帆足家住宅」などがあり、地域の誇りや象徴となっています。また、本市出身でロサンゼルス現代美術館の設計に携



<磯崎建築（アートプラザ）>

わった国際的建築家、磯崎新^{いそざきあらた}氏^(※5)が設計したアートプラザや、豊の国情報ライブラリー（大分県立図書館、大分県立先哲史料館、大分県立公文書館）などの建築物は、国内外から見学者が訪れています。

② 課題

本市の個性、特性ともいえるこれらの文化は、郷土を愛する心の醸成や、地域経済活性化に大きな役割を果たすものであることから、多くの市民に、こうした魅力あふれる文化資源の存在を知ってもらうとともに、それらを継承するための取組が求められており、あわせて、全国に向けた情報発信を強化していかなければなりません。

📌 (6)文化・芸術施設

① 現状

本市の中心市街地には、「ホルトホール大分」「コンパルホール」「大分市美術館」「アートプラザ」「iichiko 総合文化センター」「豊の国情報ライブラリー」などの文化・芸術施設があります。



<大分市歴史資料館>

また、本市の伝統芸能文化の振興拠点である「平和市民公園能楽堂」のほか、「大分市歴史資料館」「海部古墳資料館」「帆足本家酒造蔵」など、本市の歴史を紹介する拠点施設も整備されています。

さらに、市内には市営の「地区公民館」が13館、地域の自主運営で、概ね小学校区をエリアとする「校区公民館」が34館、概ね自治区をエリアとする「自治公民館」が551館整備されており、暮らしに身近な場所で文化・芸術活動の拠点となる役割を担っています。

民間施設では、ギャラリーやライブハウスなどが、個人等を中心に活発に利用されており、自由で新たな文化・芸術が育まれる拠点となっています。(49～55ページ資料参照)

② 課題

公共施設で質の高い文化・芸術を提供すること、それらをより多くの市民が享受できる仕組みづくりと、誰にも使いやすい公共施設とするための継続的な取組が必要です。

また、2015年(平成27年)の県立美術館や大分駅ビルの完成を見据え、市と県及び公共施設と民間施設の連携強化や施設間の回遊性を高める取組などが求められています。

✚ (7)暮らしの中にある文化・芸術

① 現状

多様な市民の暮らしの中には、様々な形で文化・芸術が溶け込んでおり、一人ひとりの余暇や地域での暮らし、学校教育、企業活動、福祉、地域経済などの様々な生活シーンの中で大きな役割を果たしています。

ア) 地域

校区や自治区など地域における市民が主体の文化・芸術活動は、地域住民の絆づくり、世代間交流の活発化、生きがいつくり、地域の歴史と伝統の継承などに大きな役割を果たしています。

イ) 学校教育

学校教育においては、文化・芸術を通じて豊かな心を育む教育活動をはじめ、大分市美術館や大分市歴史資料館の見学、文化・芸術に関するクラブ活動が盛んに取り組まれており、芸術系の高校や短期大学、総合大学の専攻科などで



＜市内児童生徒作品の展示会の様子＞

は、より専門性の高い教育が行われています。

また、地域と一体となった多様な学習活動の一環として、地域の歴史や伝統文化をはじめとする文化・芸術を学ぶ取組を進めています。

こうした取組は、感受性豊かな青少年の健全育成などへの役割を果たしています。

ウ) 企業活動

企業活動においては、社員等による文化・芸術活動の実践や祭り・イベント等への参加、また、市民の文化・芸術活動に対する支援や質の高い文化・芸術にふれる機会の提供など、多様な取組が社会貢献活動の一環として行われています。

また、南蛮文化や食文化などを題材とした商品の販売が行われるなど、本市の文化・芸術を活かした企業活動も行われています。

こうした取組は、人と人との絆づくりや都市の魅力向上、新たな産業創出という役割を担っています。



< 関あじ・関さばを題材とした商品 >

エ) 福祉

文化・芸術は、すべての市民にとって生きがいづくりや社会参加の契機となるものです。

そこで、障害福祉サービス事業所や大学等では、障がい者の文化・芸術活動意欲の高揚を促し支援する取組が進められています。

また、高齢者については、老人クラブの会員による作品展の開催や、「豊の国ねりんピック」^(※6)への参加等を通じ、より豊かで健康な明るい生活の実現をめざした文化・芸術活動が盛んに展開されています。

一方、病院などの医療機関や福祉施設においては、入院患者や入所者のために、ロビーコンサートなどが開催されている場合もあります。

こうした取組は、障がい者や高齢者を含む地域に暮らす多様な市民の誰もが等しく文化・芸術に親しむ場となるものであり、すべての市民に文化・芸術への理解と支援の輪を広げる役割を果たしています。

オ) 国際化が進む社会

国際化の進展に伴い、海外の国々との交流や協力の重要性は、ますます高まってきています。

本市は、アベイロ市（ポルトガル）、武漢市（中国）、オースチン市（米国）と姉妹・友好都市の協定を結び、様々な分野



＜武漢市障害者芸術団大分市公演＞

の交流を続けていますが、文化・芸術を通じた交流は、相互理解を促進し多文化共生社会^(※7)を実現するために大きな役割を担っています。

また、海外との交流を進める団体の支援や、子どもたちが海外の文化・芸術を体験する機会の提供に取り組んでおり、文化・芸術の質の向上と新たな文化・芸術の創造、さらには自己の意識の変革をもたらす契機としての役割を果たしています。

カ) 地域経済

地方分権の進展により都市間競争が激化する中、横浜市では、文化・芸術の振興と発信を柱とした創造都市政策^(※8)が展開されるなど、文化・芸術をキーワードにまちづくりを進める都市が多くなってきています。

本市を顧みると、魅力ある祭り・イベント、大分市美術館における質の高い展覧



＜本場鶴崎踊大会＞

会、数多くの歴史遺産、豊かな食文化、大分トリニータのホームゲームなど、市内外から多くの誘客が期待できる多彩な文化・芸術資源が存在しています。

これらは、効果的な情報発信を行う

ことにより、地域の賑わいづくりや都市の魅力向上、地域経済のさらなる活性化に大きな役割を果たすことが期待できます。

② 課題

市民の暮らしに溶け込んでいる、多様で多彩な文化・芸術資源とその活動が、それぞれの生活シーンの中で、どのような役割を担っているかということを知ってもらうとともに、寛容で好奇心にあふれる気運や郷土を愛する心の醸成、ひいては将来のアーティストの育成などにつながる活動の展開が求められています。

こうしたことから、団体等はメンバー自らが楽しみながら取り組むことを基本に、芸術水準の向上や活動の継続をめざし、行政は、文化・芸術を振興し、そのパワーと役割を活かすことができる効果的かつ効率的な施策の展開を進める必要があります。